

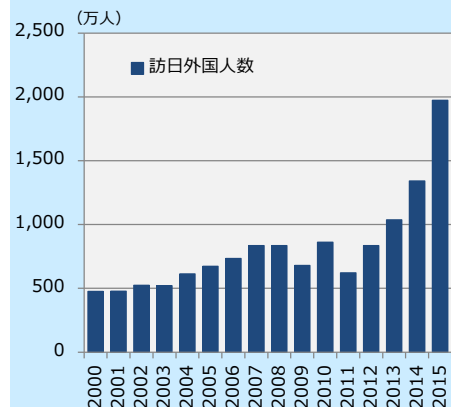
日本：訪日外客数（2015年）

—アジア観光客の「日本選択率」の上昇により2,000万人突破に迫る

MRI Daily Economic Points

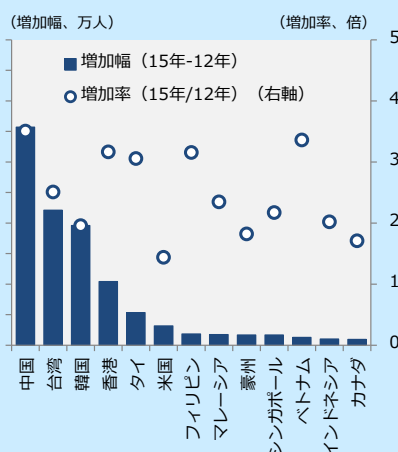
January 20, 2016

訪日外国人数



資料：日本政府観光局（JNTO）

国籍別訪日外国人数の変化

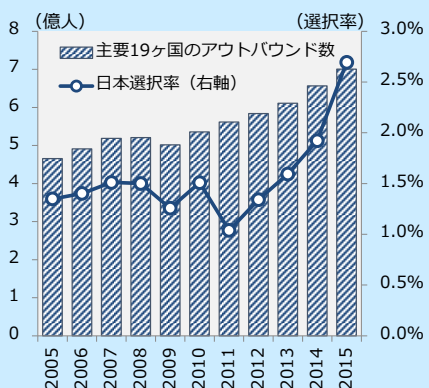


評価ポイント

2015年の結果

- 15年の訪日外客数(推計値)は、前年比+47.1%の1,974万人となった。12年頃までは800万人程度にとどまっていた訪日外国人数は、13年に1,000万人を突破し、15年には2,000万人に迫る水準にまで増加。
- 12年から15年にかけての1,138万人の増加のうち、9割はアジアからの訪日客の増加である。国籍別では東アジアからの増加が際立っており、中国(+357万人)、台湾(+221万人)、韓国(+196万人)、香港(+104万人)などが上位を占める。東南アジアからの増加幅は相対的に小さいものの、増加率ではベトナム(3.4倍)、フィリピン(3.2倍)など軒並み高い伸びを見せている。
- 訪日外国人は、なぜこれほどまでに急拡大したのか。第一に、所得水準の上昇などにより、国外に出かける人(アウトバウンド数)が新興国を中心に増加。第二に、円安の進行やビザの緩和などにより、訪問先として日本を選ぶ確率(日本選択率)が、12年の1.3%から15年の2.7%へ急上昇(当社推計)。12年以降の訪日外客数の増加の9割は日本選択率の上昇で説明できる。

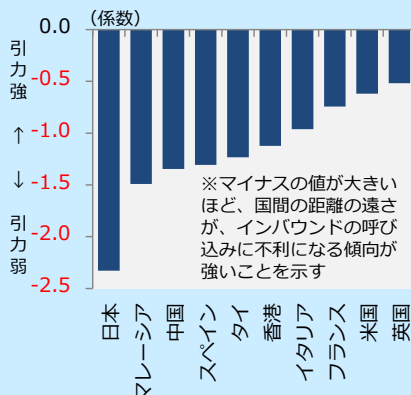
アウトバウンド数と日本選択率



注：カナダ、米国、中国、香港、韓国、台湾、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム、豪州、ロシア、英国、イタリア、フランス、ドイツ、インドの19か国

資料：UNWTOより三菱総合研究所作成

観光地としての「引力」



注：上記の10か国について、インバウンド数を、人口、一人当たりGDP、国間の距離、国境隣接タミーで回帰。国境隣接タミー以外は対数化。国間の距離のパラメータを比較したものを示す

資料：三菱総合研究所作成

今後の課題と展望

- 日本選択率が上昇しているとはいえ、世界の観光市場の中での日本の存在感は未だ小さい。UNWTO(国連世界観光機関)が発表した14年の国際ランキングによると、観光客到着数は21位、観光収入は16位と低位にとどまっている。アジア地域に絞ったとしても、観光客到着数で7位、観光収入で8位というのが現実である。
- 日本は観光地としての「引力」が弱い。フランスなど観光先進国は、近隣国のみならず遠隔地からも観光客を呼び込んでいるが、日本の訪日外国人は、近隣アジア諸国に集中しており、欧米諸国の日本選択率は総じて1%以下にとどまっている。
- アジア新興国での人口と所得水準の増加が見込まれることから、20年にかけて訪日外国人数は自然体でも3,800万人程度にまで増加すると予測する。しかしながら、日本選択率が15年比横ばいで推移すれば2,400万人にとどまるとみられるほか、逆に日本が観光地としての引力を高め、欧米も含めた日本選択率の引き上げに成功すれば、20年に5,000万人を超えることも不可能ではない。